

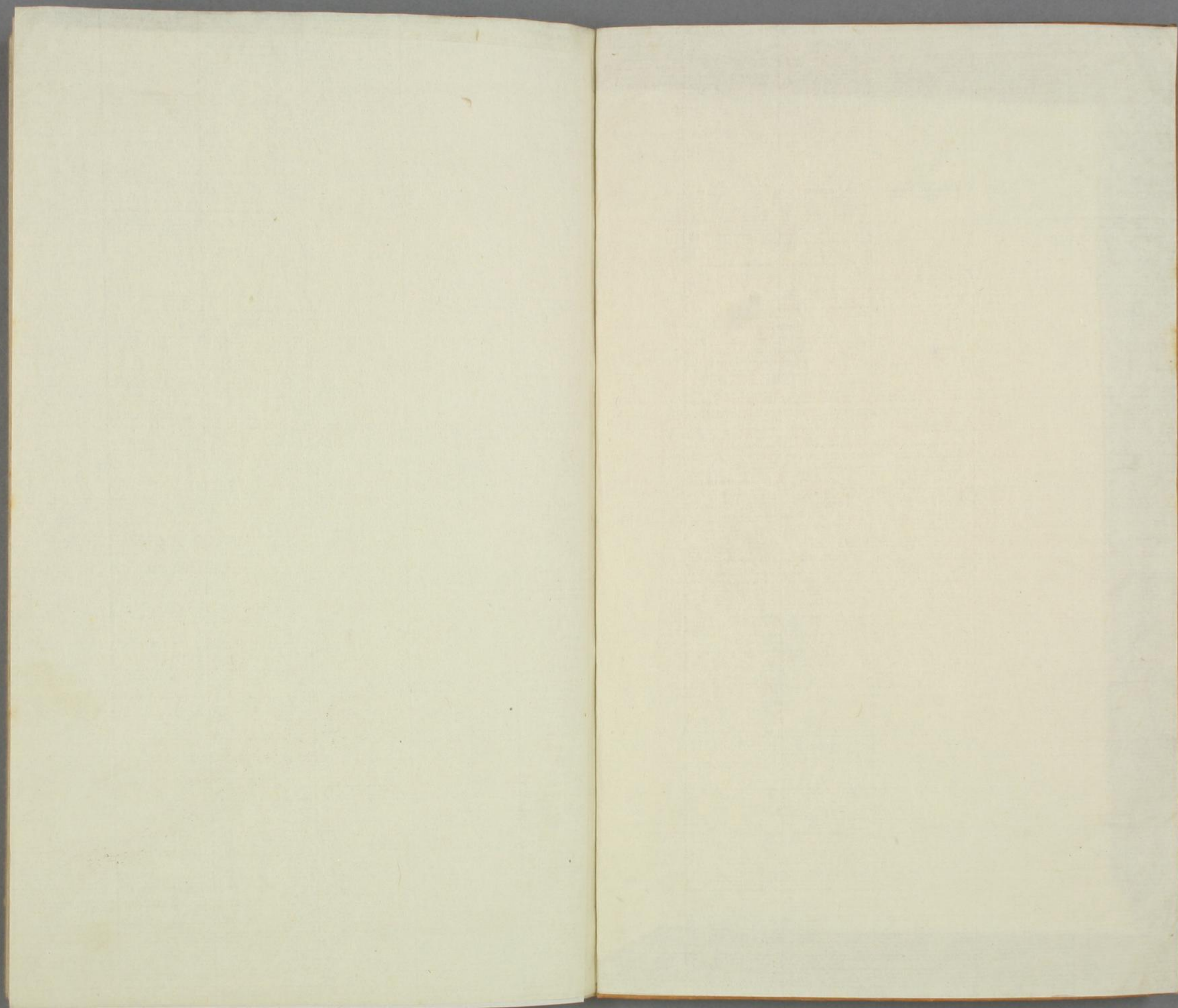


杉屋反右集

四

15
1406
4





高田早苗



昭和四年二月廿一日
高田早苗

うしろのうしろの直野... 白宮の直野...
榎原と波野... 野原の直野...

○野子玉 野子玉 野子玉
野子玉 野子玉 野子玉

野子玉 野子玉 野子玉

野子玉 野子玉 野子玉
野子玉 野子玉 野子玉

野子玉 野子玉 野子玉
野子玉 野子玉 野子玉

野子玉 野子玉 野子玉
野子玉 野子玉 野子玉

野子玉 野子玉 野子玉
野子玉 野子玉 野子玉

野子玉 野子玉 野子玉

親族の事

○山邊ヤマノヘ人 父祖未詳萬葉六ヶ所記之平山邊天皇元年山邊等之

始テ山部連ヲ云ヒ山ノカサヲ賜テ故ニ天武天皇大伴連等共氏

ヲ稱シ姓ヲ賜リケル山部王其内ニソコリ山部等稱シ流紀延喜年

丹波諸日先帝御名及朕之諱自今以後日並改姓是改姓

白髮部為直髮部山部為山是元仁帝ヲ云ヒ白髮王ト云ヒ

有ヨリ心ズ古クテミコ字マニカシケニ流津ナレテ君者諱ナレマ

者ヨリ心ズ古クテミコ字マニカシケニ流津ナレテ君者諱ナレマ

伴ト云リ云作見山ノカサリ云今モ山部ニ桓武御諱ヲ承ニヤ

又山部ト山邊ト別氏ニ流津等ミカ人氏ト山部録ナレ

ケルヲ古今真名序始テ山邊亦人ト書レテ事名書是

山邊真人トヤマベト云故桓武御諱ナレテ流津後紀弟

正ノ上ニ年記ニモ山邊ト云人春日ト云内舎人アリ

○猿丸大夫 古テ序ニ天伴馬主ニ教者猿丸ト云テ流津

興而禮其部ト云此序ナリ昔々モコトモ名ナレテ又猿丸

ハ名ニヨソアレ何氏人トモツテ又ト云相言山部有ケルヤ

○中納言家持 統紀延曆四年八月癸亥朔庚寅中納言家持之弟保高稱家持死
祀父大納言時房位安后居父大納言位二侍旅人等持卒
 十七年授後位下補中納言少輔歷任内外官毫初至治位下中
 辨弓式部有外大輔上一年詳奏議進左右大辨拜授後位
 坐冰上河繼友及事免移京外外日詔河原派復奏議春宮
 大吏以中官出為陸奥持卷使居無幾拜中納言
 春宮大夫如故死後二十餘日其屍未葬大伴繼人竹良
 等殺種繼事為廢繼見下獄索族之事連家持由是
 追除名其息亦主等並逐家流焉古往今來無不稱其
 子家持也

大伴氏天孫神孫也其後世臣命神武天皇
 臣命之名賜以神武天皇之孫也
 大伴氏之祖神武天皇也
 大伴氏之祖神武天皇也
 大伴氏之祖神武天皇也

○安倍仲麻呂 大伴之中務大輔
 仲麻呂之子也其後世臣命神武天皇
 命高祖

元正天皇靈龜二年八月廿日此縣守遣唐使也仲麻呂
 十六歲之物留之也

○奉議堂

文德天皇云仁壽二年三月丙子奉議大夫并

建紀

天押帶日子等ヨリ生タリ折幸ト同感

承和

元年四月隱岐國所流日七年五月廿九日

承和

元年九月移平位

○僧正遍昭

桓武孫大納言良岑安世曾孫公名高貞

仁和元年任僧正寬平二年四月廿九日

○河原左大臣

源融嵯峨帝弟十二子賜性貞親十一年八月廿四日下大原皇子

元年七月廿五日薨死七十一

○光孝天皇

昇平代時承仁明帝才之百皇子母贈美原藤澤子元慶六年夏禪在位三年仁和元年八月廿六日崩

○中納言行平

平城帝孫阿保親之子天長三年親王上表賜在原朝臣姓於諸子元慶六年八月任中納言元年五月薨

○在原業平朝

阿保親之弟母伊香内親之後上右近守將

○在原敏行朝

海軍使高士及男治五上大内記

○伊勢

仁和元年

○元良親王

治承元年七月廿六日薨

元良親王治承元年七月廿六日薨

了る事ナラヤリハナニキツケテマシテ
了る事ハナニキツケテマシテ

ある事ハナニキツケテマシテ
ある事ハナニキツケテマシテ

雷丘高市郡雷村ト云ルアリテ
雷丘高市郡雷村ト云ルアリテ

一雲仲流ニイハツテハ
一雲仲流ニイハツテハ

〇庵トイハレテハ
〇庵トイハレテハ

〇姫和名ノ之説云
〇姫和名ノ之説云

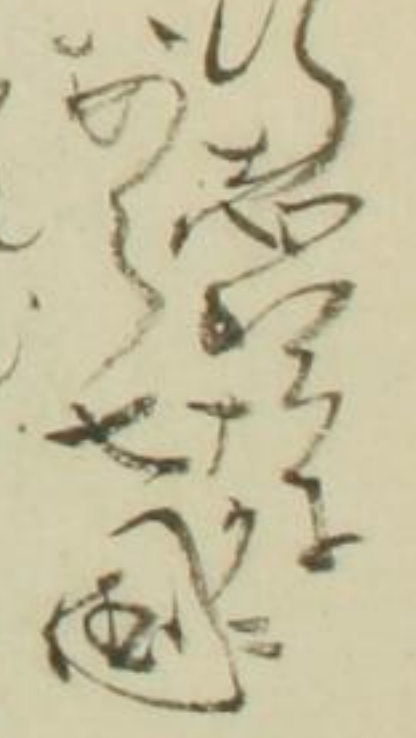
し和名ノ無事ト云
し和名ノ無事ト云

既チオムナハ
既チオムナハ

強流ニヒテカケリ
強流ニヒテカケリ

大宮之内ニ手所
大宮之内ニ手所

迄ノテを以て清音
迄ノテを以て清音



此記^正事十八年オネテテ成リケルサテ此記^正事十八年オネテテ成リケルサテ
古語ヲムネトシテミ^中彼書^正記イミキテヨリ世カシテ彼^正事
ヨリ用ヒテ此記^正事ハ名^正ラズシテモ多ク其所以^正ハハト云ニ漢籍ノ
ヨリ同成^正事行ハレテ何事モ徳^正國イサラシム人毎^正ニウヤ^正好^正ガ
之^正紀^正其^正漢^正國^正自^正史^正ト云フニウヤ^正ハ何^正カ^正ヨロコビテ此^正記^正スナハル
ヲミテハ正^正ニ干^正國^正史^正ノ體^正ヲラズト云ヒテ取^正ラズナリニミ
○和^正國^正七年^正此^正朝^正臣^正清^正人^正ニ宅^正臣^正藤^正麻^正呂^正ト云ハルモ國^正史^正ヲ撰^正ズ
○平^正城^正御^正代^正ニ至^正リ大^正御^正志^正ヲ繼^正筆^正テ太^正朝^正臣^正ト仰^正セラル^正釋^正阿^正礼^正カ^正論
習^正タ^正ん^正故^正事^正トモラ撰^正録^正シス^正後^正ハナリ^正次^正和^正國^正七年^正撰^正録^正シ
○未^正又^正復^正河^正色^正方^正ヤ^正ル^正ワケ^正男^正亮^正ニ年^正又^正シ^正舍^正人^正御^正子^正

伊^正母^正テ^正其^正紀^正ヲ撰^正ハシメス^正○其^正紀^正ヲ撰^正ハシメス^正勝^正リ^正宜^正シ^正故^正ニ
○正^正史^正ト^正定^正マリ^正テ^正其^正後^正又^正改^正テ^正撰^正ハル^正事^正モ^正ナリ^正ナリ
○信^正ハ^正識^正者^正ノ^正臆^正度^正
乾道獨化^正所以成^正此^正純^正男^正ヲ^正變^正乾坤^正之^正道^正相^正參^正而^正化^正
所以成^正此^正男^正女^正コ^正ト^正是^正ホ^正撰^正者^正ハ^正モ^正テ^正新^正成^正ラ^正ズ^正ナ^正リ
其^正故^正ハ^正先^正乾^正坤^正ハ^正ト^正ト^正白^正國^正ニ^正キ^正テ^正其^正書^正ヲ^正シ^正テ^正傳^正ス
○但^正天^正地^正ヲ^正乾^正坤^正ト^正書^正ス^正ル^正文^正字^正異^正ハ^正レ^正バ^正ホ^正モ^正エ^正ル^正ト^正モ^正ナ^正リ
○夕^正チ^正ヲ^正其^正乾^正坤^正ノ^正道^正ニ^正ヨ^正リ^正テ^正他^正撰^正ル^正サ^正キ^正書^正シ^正タ^正ル^正事^正ナ^正リ

天ニ神引んか如ク云テシテ人禍福ニ何キ世中キ事皆ソノ所爲トスル漢
國ノトニテ僻事ナルヲモテシテ漢文ノカガリヲ肯トセラレシカレハ道ハ
尸ナリテ漢意ニ感ハレテ世人此差別ヲエシテモモテテテ海リ
テ天神ト申スハ僻名ニシテ即チ天トシテ心得タル殊ニ高貴
トナル文ナリ 此傳説

○卷上ノ卷中ノ卷下ナト云ニ漢書ニ卷之一。卷第一ト云同ジマキツイテトソ
又ハヒトトマキナリ又ルマキモヨムハ中ノヨク南國物語ニシテウツシ
○ナ之類ニニ之卷ニナト云ニ云ケル

日本紀ヲハ皮麻登夫美ト訓ヲ古事記題号ハ訓アルト云同云ズモトヨリ
撰者ハ心ニテ字音ト漢トニテ有リテ下彼夜麻登夫美ハ似似ハ
布流許登夫美トハ訓ニシト云ルカシキ中ノ事ハナカクマキ

自然聖鳳朗

○肥後熊本ノ産由浪人ニテ享和年中江ノ来難
級中島源孫晴シ律号對竹ト申ノトニ後ニ田川篤馬
心ニテ改メ形俗キテ所ニ行脚イタシノ由ニ金八合道
彦トスル此踏歩道ニ高宅ニ同居シ芭蕉舟者此道
○二系家ニテ佛瑞事道ニ免許アリト申テ先年江
ニテモ月院社何九ト申モハ同ノ人ハ示青軒松儀ト
申モモ多ク金ヲ献シ官服ヲ免サレシ由鳳朗ノ人
松儀ハ浅草寺御藏赤松儀ト申モハ同ノ人ハ示青軒松儀ト
申レ居ニテ右ノ鳳朗モ少免許ヲ蒙リ申

此儀江戸にて不明なり

此の風聞等より先づ江戸に於ては其儀あり故に其の
アリし時ノ程ヲレシメテ申上ル

二世松徳門下ノ事ナリト申上ル

○其の事等古國書ニ記シテ

○聚而為行年後揚州府院中書大夫等ニ昇格アリ

一書ニ馬場御前ニ書テ喜喜御前ニ書テ太平御前書御前ニ書テ陸王

指録ニテ記シ

○顔色陰沈上體ノ言ニ浮出方沈みテ花散リ生ハ後長考ニ

○此の事ハ秘傳ニテ記シテ清公怒ノ容相

○羅漢堂ニテ書テ銘曰先ニ春ニ興シクツテ

○此の事ハ早御前ノ記ニテ記シテ其儀ハ西ある事ニ記シテ

○此の事ハ徳九年ニシテ海内主トナリ

○高信云臣大感皇恩云云元禄年中内より侍之取之ニ異野

○此處自付大花御前ニシテ主クテ

○沙汰御前ニシテ書テ記シテ其儀ハ

○下ノ内侍ニ依テ記シテ其儀ハ

及後終る所の世をなす我々の命を切らば
その手は石に信を置かず山に天を混る命の命を
二と考ふに終る命を二と云ふに八の御徳の
成すにト云ふに信を置かず山に天を混る命の命を
其手長しと相表結り命を置かず山に天を混る命の命を
出に置しと云ふに信を置かず山に天を混る命の命を
其手長しと相表結り命を置かず山に天を混る命の命を
信を置しと云ふに信を置かず山に天を混る命の命を

一 是れ大華表

高土

海と云ふは... 高土... 海と云ふは... 高土...

海と云ふは... 高土... 海と云ふは... 高土... 海と云ふは... 高土...

此薬ヲ附テ忽ニ全快セリ

○月々此の薬を服用せしむるに依りて其の病は漸ク癒へり

○此の薬は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

○其の効驗は凡そ此の病に患ふ者には必ずしも効を奏す

慶応三年春所鑄常陸水戸鉄錢之字面

表富國強平 麟虎ノ形 子文泉

新細

潭

網

死

春

薺

生

安

龍

子孫... 夜追... 鶴

明... 氣... 石...

此... 考...

三月朔...

文...

三月朔... 文... 石... 考... 子孫... 夜追... 鶴

新物致す子安公字之由下
三平事は既述す如く母は
再福之ヲ一男二女を生む
西平任仲孫は後平之好武也
二男大和長成之妻清伯又
之は長成之妻清伯又長成
後平又記三平の事あり
三平の事あり

日お申事なる妻孫は、
作中は病ありて、
丹波守平太公の事あり
云々、
ト、
竹

竹

東地之平倉

寛永七年九月廿五日

海祥院仁術了義大御

子口 福常 丹後

湯島天澤

此の書は乃新位... 寛永七年九月廿五日... 湯島天澤

湯島天澤

寛永

福常

丹後

湯島天澤

不羈

苛

景况

鏡隊

發

令

車

騷

豊

方

佐渡國新大郡二若彈三郎權事

若石雜記其卷

くろまきし海しケリソ借心より身救
印ヲ押し西海スレバ船首穴ノ口其ヨリ
カレタアリシカハモラ借スルソノ借
借サスナリキ
○園西
文三
一 向き因りしは船首をたて置けり

○一 銭知
一 寺田郡寺田町西田三毛寺前也
一 若中ノ寺ノ後ノ山ノ麓ニ在リ

満洲海軍 昭和十一年六月

志高馬名義

一 所 體 海 中 ノ 庭 也 狹 場 ト 云 ケ リ 音 傳

カウマボリノ一 庭 也 狹 場 ト 云 ケ リ

作久知元 印 摺 江 方 高 寺 高 東 北 七 丁 沖 方 大 元 元 其

形 水 四 尺 二 尺 三 寸 高 七 寸 故 遠 ク 測 定

○ 成 田 郡 新 大 郡 二 若 彈 三 郎 權 事

ナリシト云下ハ 後 方 三 寸 大 岩 寺 岡 山 道 邊 言 々 抄 也
其 亦 後 方 三 寸 大 岩 寺 岡 山 道 邊 言 々 抄 也

龍崎

○江戸龍崎(両玉)新島城下(安海)船乗り

○清洲龍崎(清洲)龍正院(龍崎)龍崎(龍崎)龍崎(龍崎)

○第和七(中)朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)

○朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)

○朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)

○朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)

○朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)

○朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)朝日(朝日)

東山(清)信(信)信(信)信(信)信(信)

○乙之家(乙之家)乙之家(乙之家)乙之家(乙之家)

○神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)

○神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)

○神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)

○神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)

○神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)神崎(神崎)

○佐倉宗吾名

公津村山中より徳満院障風通南屋

手由應二平巳年八月日

宗一申年百回忌後同ヲ修リ之修寺院

○徳債市川團十郎が父

下総佐倉 徳債市川團十郎が父 下総佐倉 徳債市川團十郎が父

下総國佐倉 徳債市川團十郎が父 下総佐倉 徳債市川團十郎が父

下総國佐倉 徳債市川團十郎が父 下総佐倉 徳債市川團十郎が父

唐大十右門名之少之長之市川團十郎云

○神馬月神

西之相根西馬ノ名也

官ノリ 別地ノ玉ノリノトニ 大ノ神馬ノ名也 香更神馬ノ名也

山柱

本寺ノ山柱ノ月桂條 李本錦葉集ノ行

此ノ山柱ノ月桂條ノ名也 此ノ山柱ノ月桂條ノ名也

○ 倭の海

三千里許の海に在りて神宮

相距

周匝十里

此湖水

消歌

古先傳

南敷

三千里間

華

天紅

扶

貴大神影向

此歩

自三例

根海

國

○ 孫子

天好

心

○ 佳家

好

好

好

好

雅

東照宮御遷座次第

元和三年四月十七日遷座

元和三年遷座時山日光山御遷座

四月五日在神院入行奉幣 八月日真院石室奉幣

日廿日夜返殿神書遷座 日廿日新造神

日十七日奉祀名行 遷座

御神号御位階 元禄辛丁巳三月廿日詔

東照大権現 日廿日正一位

贈

神号 元禄元年正月廿日勅

新造神 神

如

宮殿 等之門西桐所

高石雜志

○江戸の俗傳云々... 且春勤行...

○丙午... 生... 庚申...

○其年... 心... 由...

○龍胆... 午陽... 四月...

○必... 年... 大...

○陽... 任... 下...

○壬子年... 水...

○國...

○氏...

○國...

○身...

○面...

○帝...

○小...

○而...

○中...

○大...

○ヨ...

塞之好馬

准而子人何訓
王元海衛

牛子較之馬ヲ収メス

我事也

類書第幾巻首杭城有二摺城每城人家物之
必用粉書其門曰我來也下等

未未也

唐天祐二年二月十日
市都天狗波推一夜中
未未不

○手習

程林為

○米ッ餅ヲ乾ク以テ平苦

不換金心氣散

四時傷寒痲疫時氣山嵐瘴氣
寒熱往來霍亂吐瀉嘔逆或赤或白

若旅ニテ
水中文者治常ホレ腹スルニ宜シ

朴陳守蒼耳

右姜棗ヲ入レ煎シ服ス頭痛ニ發シテ正カク寒感

腹痛ニ姜官ツク潮熱セバ柴胡ツク嘔逆ニ高

砂ツク心煩ニ柴胡ツク氣塊ニ枝枳

苛加フ熱極大使通セサニ柴胡ツク芒ツク痰ニ恒枳

腹ニハ莎枳ツク刺ニ連枳ツク其去ル胸脇ニキハ

○寒衣神夜衣の事 古事記一巻 天孫御紀

○見世の事 地蔵云玉葉卷言云人之初生也其目為胎人之初死也其目

為心一魄而一魄成故七七甲九日而七魄具矣一忘而一魄散七七

止此日七魂散也故云 寛鬼の降時録也

○短人 今俗セビク又セムシ

○裸人 ヲサシム云

○鰥 和語也

○石決明 鰥九孔螺殼也千里光 乾 一名首戴 和名阿波比 今俗云

○有文 素親者又古 喜者 仁也 有見見者 風鳳 文者

○麗古文 新書石決明傳

○子子 昔子子云 竹花 和名也 喜鶴 和名也

○的 字ホウニ云 立雅 和名也

天子御衣 朕妾月事也 口以之流多故此面注

○柳白田 中杜和製也 十之 中杜 社木 杜モリ 風 和名也

○^キ鑿^シ躬^シ躬^シ新^シ寬^シ延^シ子^シ綱

○^イ室^シ山^シ入^シカ^シラ^シ手^シラ^シ室^シシ^シク^シシ^シ尾^シ

唐山^シ古^シ後^シ
本^シお^シて^シモ^シ三^シ代^シの^シ事^シ

○^イ苛^シ伊^シ多^シ苛^シ音^シ高^シ伊^シ良^シ中^シ草^シ生^シ刺^シ
今^シ俗^シヤ^シル^シカ^シル^シ鏡^シ菜^シタ^シテ^シ腕^シガ^シラ^シイ^シラ^シク^シ云^シ

○^イ情^シ死^シ聖^シ德^シ子^シ妃^シ情^シ化^シト^シ云^シ流^シ

左^シ子^シ傳^シ傳^シ

魁^シガ^シカ^シル^シ

○^イ斬^シカ^シ干^シ子^シシ^シ往^シ者^シヤ^シリ^シカ^シ干^シ

和^シ名^シ斬^シ斬^シ和^シ名^シ實^シ奈^シ

綱^シ

次^シ已^シ儘^シ

○^イ長^シ男^シ伯^シ伯^シ夷^シ家^シ督^シ地^シモ^シ子^シナ^シラ^シク^シモ^シ存^シ子^シシ^シ
漢^シ天子^シ伐^シ伯^シ夷^シ子^シ孫^シ考^シ子^シ禘^シ賜^シ凡^シ其^シ義^シ
魯^シ碑^シナ^シト^シ子^シ存^シ子^シ孫^シ考^シ子^シ禘^シ賜^シ凡^シ其^シ義^シ
伯^シ仲^シ未^シ季^シ

○^イ德^シ澤^シ及^シ枯^シ骨^シ覆^シ文^シ也^シ世^シ昌^シ建^シ臺^シ流^シ數^シ重^シ糸^シ

高^シ段^シ紂^シ王^シ妲^シ己^シ

○^イ羈^シカ^シメ^シサ^シキ^シ端^シ孫^シ魯^シ公^シ臣^シ獨^シ関^シ之^シ末^シ伯^シ追^シ較^シ手^シ

多々バツト氏河トモツケ又氏トモツケナリ
ツケタルハ弥右意ニテ明カシ
津波をるる所ニモハリ
知れり何レトモハリ
いふもしりしハ

宗加弭 御海軍
御海軍ヨリハ
御海軍ヨリハ

和豆肝之良受
ワツキモシ
御海軍ヨリハ

叶ドク 御海軍ヨリハ
御海軍ヨリハ

美草 御海軍ヨリハ
御海軍ヨリハ

白瀬朝倉合御宇
大原所推古天皇
雄男

市園平官御明
御明天皇

道入天建
天智天皇
明日香津比古宮

付長天皇
天智天皇
帝性至孝以父日本武尊早世哀慕不已至復國真

白鳥
天皇
皇孫至痛將玉鳥野山涯投釣

新羅之古
天皇
大悅聖德太子浦臨海

祇教賴
天皇
海則嶺巖自熱中今使結西野作男壯親執

誓師 神功皇后 天智天皇 治令書二卷

天智天皇 詔服色定 武 武克十條

天智天皇 詔 治令書 姓一真入二朝臣三宿祢四臣 姓一真入二朝臣三宿祢四臣

鑄錢司置 武 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

武克十條 武克十條

と云ふあはらうし... 山... 智... 殿... 子

又散中乃念真 養生送死

共君一夜許勝讀十年書

月... 世... 子

○月夜江波白潮来乃如青王淮

○壁空野人唱河梅候 秋 柳宗元

武士の矢はらう... 世... 子

吳義風雅頌賦比興

△風、諸國ノ下ニ男女老幼ノ情ヲ以テ得ルニ風禮

カハルニ風ト云

△雅、朝廷ノ為ニ下ニ已ク情ヲ以テ得ルニ風禮

△頌、宗廟ノ為ニ祖考ノ徳ヲ以テ得ルニ風禮

△賦、禮ノ為ニ情ヲ以テ得ルニ風物

△比、興ノ為ニ情ヲ以テ得ルニ風物

△頌、宗廟ノ為ニ祖考ノ徳ヲ以テ得ルニ風禮

△賦、禮ノ為ニ情ヲ以テ得ルニ風物

△比、興ノ為ニ情ヲ以テ得ルニ風物

△頌、宗廟ノ為ニ祖考ノ徳ヲ以テ得ルニ風禮

七國語 明史記 卷

○本屋経神代卷書記古天比未言源此の部是比言活其精トモノ

○次故同周蘭之時下アルシテ下ニ立入侍流るる故曰昔シク其ハ

○新堀テシ名潤色文ナル下シラシキリ此ハ子何ノ意也コ上北内

○湖作爲湖ノ満時波ノシガと云智ノ和叶野伯言

○郁良弦取波氣ツメテ弦ト云テ一物トス湖ハ此久本祿所書

○馬業荒城ト云荒ハ飯ノ意城ニ養類ヲ云ハバPアリ

○安良約ギレハアラキト云教トあり古ヨリ專ラPアリ

○之草ツメテ草ト云ホリ生ホトアリ此ニテ

○宜ちおまおりの能と云稱と女内ハレ生をマシ

○把心中心おまおりの能と云稱と女内ハレ生をマシ

○把心中心おまおりの能と云稱と女内ハレ生をマシ

五言の句もあしむるもの病れに似たり

性静情逸 心動神疲 守真志満

逐物意移

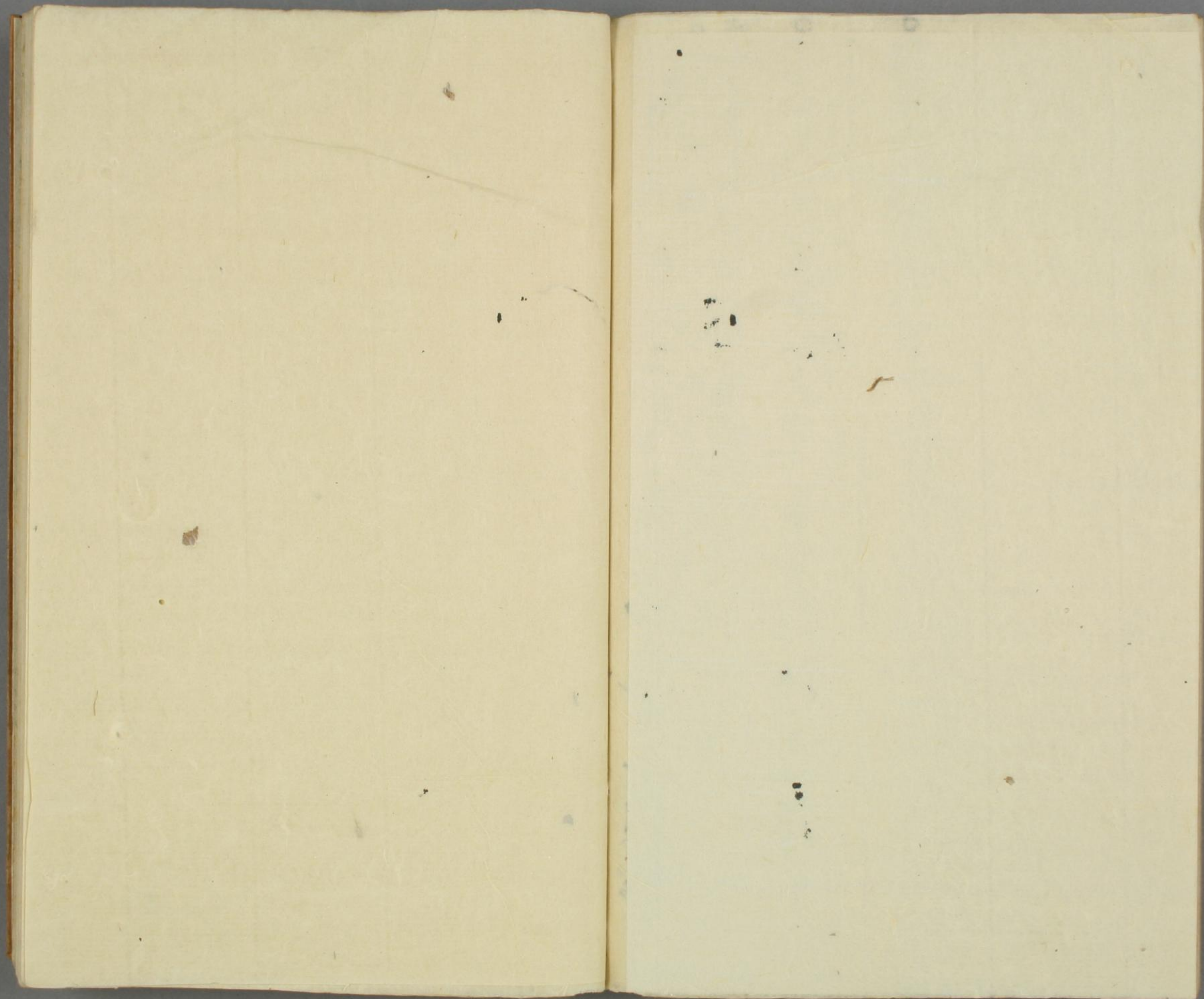
百字文章

武江年表
○慶長十一年 有 野原清正 於 石川 御

三浦 公 自 之 志 願 之 事
○ 天 正 十 一 年 六 月 廿 日 清 正 之 卒

○ 天 正 十 一 年 野 原 清 正 之 卒 天 正 十 一 年 六 月 廿 日 清 正 之 卒
○ 諸 侯 五 部 文 代 野 原 清 正 之 卒

○ 諸 侯 五 部 文 代 野 原 清 正 之 卒

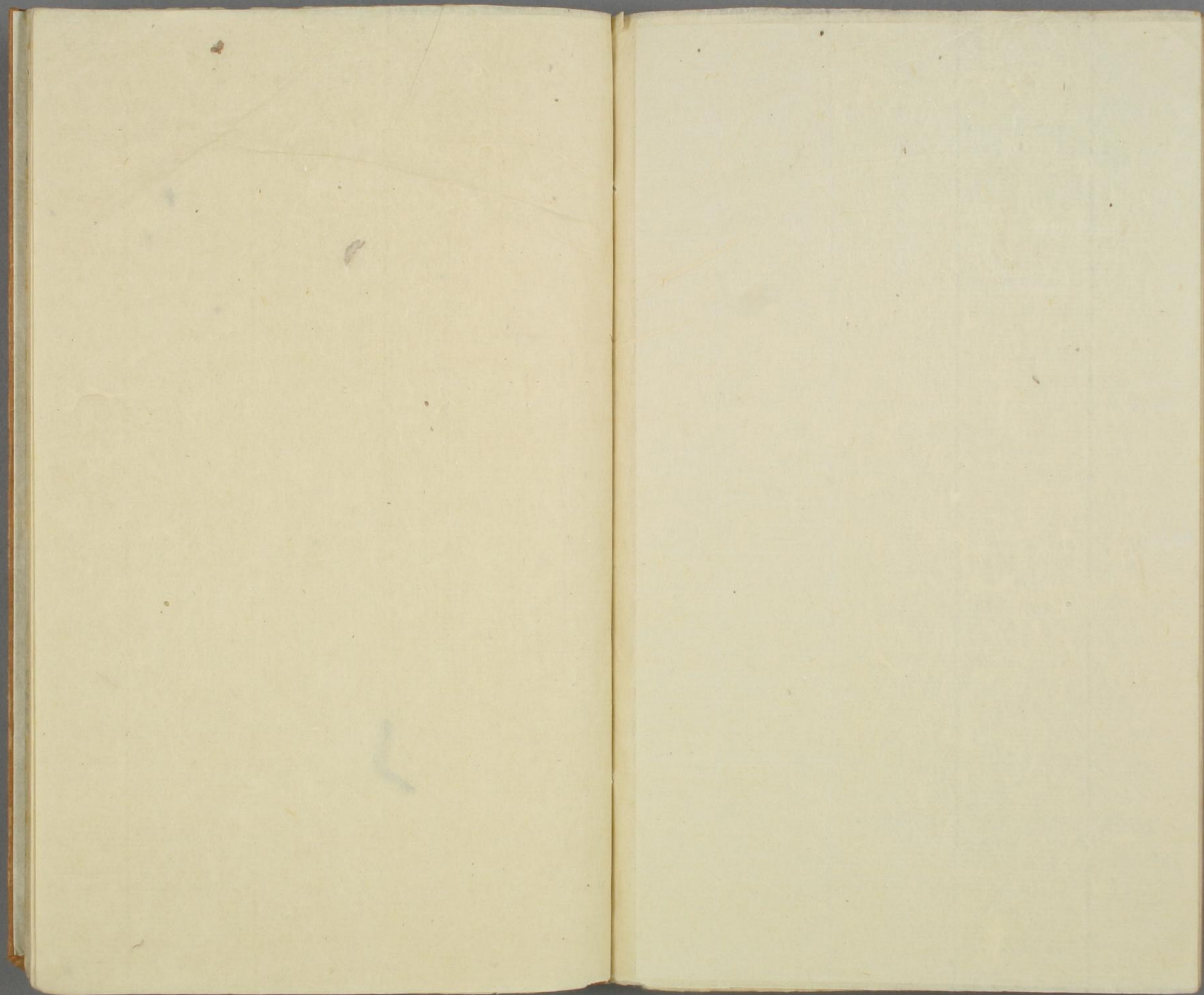


以下

3 丁

白紙

勿謂今日不與子而有讓日勿謂
今年不與子而有讓年一月
推此與之身不我延嗚呼先
矣且之誰之怨怨事文公



以下全て

白紙

